

ふくしま 再生 短信

2019 / 12 / 15 - 16 農泊事業視察団同行記

※ 遠野を歩く ※



菊池さん (左端) の講義

2019年12月15日、佐須行政区地域活性化協議会主催による遠野視察団に同行。一行は東北新幹線「新花巻」から車に分乗して遠野へ。目指す先は「認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク」(会長・菊池新一さん)。到着後まずは菊池さんの講義、「日本の場合、農村を大事にする文化が未成熟、「ありのままがいい・旅も人も」を目指し、交流を通して都会の人たちともその想いを共有し、一緒に活動したい」と菊池さんは言う。講義のあとの第一声は「街を一緒に歩きましょう」。



まつだ松林堂の女将さん
お店をあとにした。お見送りが嬉しい。

遠野は実は大手メーカーのホップ一大供給地、ビールといえばジンギスカン鍋も名物になっているのが面

白い。地域通貨に名がつく「カップ」は座敷わらし・姥捨・などと並んで遠野物語に出てくるが、次代に生命を繋ぐ知恵とのこと。男のロマンが女の不満であってはならない、菊池新一さんの持論。この日の農家民宿く素づくり亭の主人は菊池貴久子さん、好きな言葉は「金もうけ」でなく「人もうけ」。出会いこそ宝石だ。



泊まり先の顔が見えるく素づくり亭>主人は菊池貴久子さん (右端)

16日、今日も菊池新一さんと。遠野は「旅産直」を掲げるだけに役者には事欠かない。「夢産直かみごう」に出店する「季節のジェラート工房・遠野酪農舎」では代表の入倉康彦さん直々出迎え。たかむろ水光園は落差百米の水力発電利用、山と農地に囲まれたユニークなホテル、遠野名物「ジンギスカン」「どぶろくソフトクリーム」も堪能できる。このあとデンデラ野(下の記事参照)など柳田国男『遠野物語』(1910)発祥の地・土淵山口集落を案内していただく。帰路は記者のひとり旅・・・。(文責&撮影・若林一平)



ジェラート店前・入倉さん



土淵山口集落の水車小屋 (右・菊池新一さん)



たかむろ水光園

デンデラ野

デンデラ野は山口集落にあって、『遠野物語』【写真4】では「蓮台野(れんたいの)」であり「デンデラノ」と訛ったと伝えられているが、現地には六十歳を超えた老人たちが起居を共にする「あがりの家」が再現されている【写真1】。老人たちは昼間は里に降りて農作業手伝い、何がしかの糧食を得る。土地では朝に野

らに出ることをハカダチといい、夕方野から帰ることをハカアガリという(「遠野物語」)。現地に来て気づいた。「姨捨」のレリーフがある高室橋を渡りデンデラの坂【写真2】を上ると直ぐにあがりの家がある二百米足らずの距離は人里離れた「姨捨」のイメージとは全く違うのだ。遠野の冬の最低気



1



2



3



4

温は北海道・札幌より低い。「姨捨=口減らし」は過酷だけれど「命の軟着陸」だったのでと遠野発の夜汽車でひとり考えた。【写真3】